

金沢で考えること 視えること

家業という文化装置

出島二郎

家業とは、継承と革新がせめぎあう 激烈な現場だ！

異能のプロデューサー・出島二郎が自らの生の足跡と重ねつつ描く、
希有の「金沢と老舗企業の文化誌」。

国際日本文化研究センター所長・文化人類学者 小松和彦

美学出版

● 定価（本体1800円＋税）

- 体 裁 四六判／上製／282頁
- 定 価 本体 1800円＋税
- I S B N 978-4-902078-50-3
- 発 行 美学出版

家業という文化装置

金沢で考えること 視えること

出島 二郎〔著〕

家業とは、継承と革新がせめぎあう 激烈な現場だ！

異能のプロデューサー・出島二郎が自らの生の足跡と重ねつつ描く、
希有の「金沢と老舗企業の文化誌」。

国際日本文化研究センター所長・文化人類学者 小松和彦

私の問題意識は、何代も続く事業の秘訣のようなものを嗅ぎ出すことにあった。
私自身がその経営活動に参画してきた家業もあり、あの時の判断は正しかった
のか、という自省に苛まれることもあった。しかし、各社の現状を見るにつけ、互
いに交感した言葉は生きていと確信したのである。その一つが、「家業は地域の
文化装置」ということであり、まちづくりの主体は家業にあるということなのだ。
（「あとがき」より）

目 次

はじめに

第一章 佃食品・佃煮から多様な展開

第二章 加賀麩不室屋・ふの字の小宇宙

第三章 福光屋・純米蔵宣言二〇〇一

第四章 浅田屋・変貌する老舗

第五章 高木糰商店・東雲の花街

第六章 丸八製茶場・焙茶の再構築

第七章 家業とまちづくりと

あとがき

著 者

出島二郎（でじま じろう）

プロデューサー

1944 年生まれ。石川県内灘町出身。「フードピア金沢」（金沢市）、「能登国際テ
ント村」（七尾市）、「北近江秀吉博覧会」（長浜市）、「湖国21世紀記念事業」（滋賀県）、
「江・浅井三姉妹博覧会」（長浜市）などに参画。金沢、七尾、長浜などで家業の
勉強会を開催、また加賀市のアドバイザーを務めるなど、まちづくりと地域企業
のマーケティング戦略に取り組む。研究テーマは「家業の継承と再生」である。
著書に、『福正宗物語』（編著・福光屋）、『鶴見和子の世界』（共著・藤原書店）、『祭
りとイベント』（共著・小学館）、『長浜物語——町衆と黒壁の十五年』『その後の
長浜 2003～2012』（NPO法人まちづくり役場）、『地域の遺伝子をみがく』（共著・
蒼天社出版）、『他と異なることを怖るるなかれ——奥村善久博士の軌跡を読む』（
編著・金沢工業大学）、『泉屋利吉の教育思想』（金沢工科大学同窓会こぶし会）、『明
石合銅物語 1946～2008』（編著・明石合銅）、『加賀棒茶の誕生——戦略転換の
シナリオ』（丸八製茶場）、『森の中へ・七尾自動車学校』（七尾自動車教習所）な
どがある。現在、『文藝春秋』に「KITキャンパスレポート」を連載中。出島二
郎事務所主宰。金沢工業大学非常勤研究員、（財）何必館・京都現代美術館理事。

注 文 書

全国の書店・大学生協にてご購入いただけます。在庫がない場合はご注文下さい。

出島二郎〔著〕『家業という文化装置 金沢で考えること 視えること』を

冊申し込みます。 ISBN 978-4-902078-50-3

ご氏名

Eメール

ご住所（〒 - ）

お電話

FAX

*お急ぎの場合は弊社からも直接ご購入いただけます（入金確認後、直送。送料は当方負担）。
Web サイトから、または Fax およびメールにてご注文ください。
折り返しお支払い方法等をご案内いたします。

美 学 出 版

Tel. 03-5937-5466 Fax. 03-5937-5469

e-mail : info@bigaku-shuppan.jp www.bigaku-shuppan.jp